



CSR
行動原則

5

透明性の高い開かれた事業活動

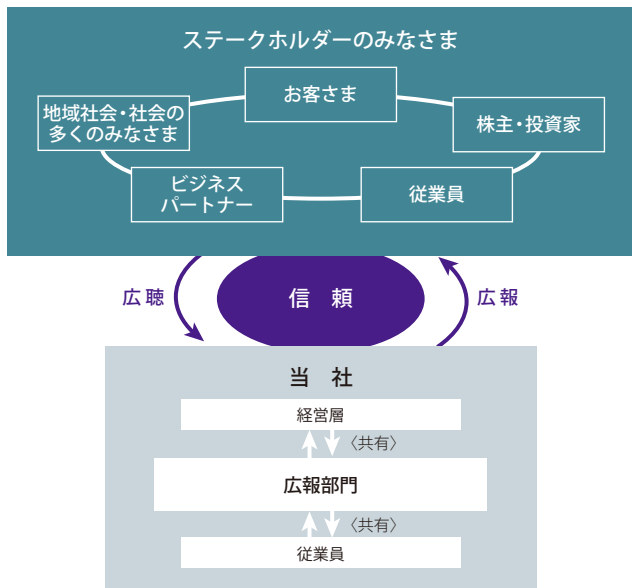
関西電力グループは、事業活動に社会の声を的確に反映させるとともに、適時的確な情報公開・発信や、社会のみなさまとのコミュニケーションの一層の推進により、事業運営における公正さを確保し、社会に対する説明責任を誠実に果たすことを通じて、透明性の高い開かれた事業活動を行います。

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを充実

広報・広聴活動について

広報・広聴活動を通して、お客さまや地域のみなさまをはじめとするステークホルダーの方々に適切に情報発信をおこない、当社事業にご理解をいただくとともに、頂戴したご意見やご要望について、経営層や従業員と共有を図り、事業活動に反映させることで、みなさまからの信頼を賜ることができるよう努め

ています。また、さまざまな機会を通じて、ステークホルダーの方々との「フェイストゥフェイス」によるコミュニケーションを実践しています。みなさまからのご意見やご要望をしっかり受け止めつつ、正確で丁寧な情報発信をおこなうことにより、当社事業活動へのご理解をいただきながら、信頼関係を強化していきたいと考えています。



社会のみなさまの声を事業活動に反映

各事業所は、お客さま宅への訪問のほか、地域の有識者やオピニオンリーダーの方々との意見交換会などを通じて、ご意見やご要望を頂戴するとともに、事業活動への反映に努めています。

また、地域社会のみなさまとの交流の場や、日々の業務においてもさまざまな広聴活動を展開しています。こうした活動などで頂戴したご意見は、データベース「ダンボの声」に掲載し、全社で共有するとともに業務改善に役立てています。

加えて、東日本大震災以降、エネルギー問題についての自治体や地域のみなさまの関心が高まっていることを受け、ご期待やご要請の迅速な把握に努めるとともに、地域のみなさまとエネルギーについての課題を共有し、解決に向けて取り組んでいます。

5 透明性の高い開かれた事業活動

報道機関への対応

テレビや新聞が報じる情報は、お客さまの当社に対するご理解やイメージを大きく左右します。そこで、定例社長会見をはじめ、報道機関への情報提供を積極的に実施するとともに、報道機関からの取材にも迅速かつ的確に対応し、当社事業への理解促進を図っています。



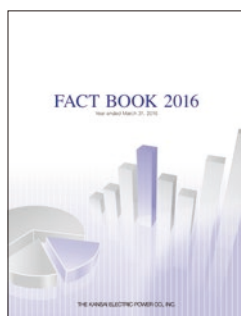
記者会見

株主、投資家のみなさまへの情報発信

株主、投資家のみなさまへの公平で迅速な情報発信に努めています。国内や海外の機関投資家、個人投資家、公共団体など、多岐にわたる方々に対し、さまざまな方法で情報を提供しています。社長による「会社説明会」や、社長を含めた役員による国内外の「投資家訪問」を定期的実施し、経営者自らが積極的に投資家のみなさまと対話を図るとともに、資本市場の声を経営にフィードバックするなど、双方向のコミュニケーションに努めています。また、当社事業の概要や経営目標、財務データなども、適時、ご提供しています。



「IR 情報」
(当社ホームページ：随時更新)



『ファクトブック』
(年1回発行)

Webを活用した情報発信

メディア環境の多様化を踏まえ、インターネットでの情報発信に力を入れています。お客さまが知りたい情報に素早くアクセスできるように、ホームページのトップページや各ページのデザインを大幅にリニューアル(2016年12月以降順次)しました。

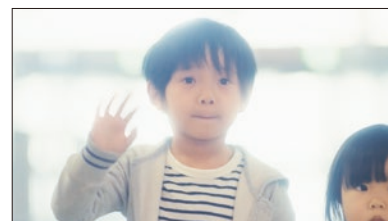
また、Web動画では当社の想い(ブランドステートメント)をヒューマンストーリーの中で描いたり、Youtuberとタイアップして当社の安定供給を支える技術力を動画で伝えたり、原子力を含むエネルギー問題を分かりやすく解説したり、さまざまな企画と工夫で、多くの方々にご視聴いただいています。

さらに、ソーシャルメディアの活用にも注力しています。Facebook、Twitterでは、安全・安定供給に対する当社従業員の想いなど、より現場にフォーカスを当てた記事を掲載しています(Facebook ファン数は13万人を突破)。また、Instagramでは、「灯り」をテーマとした心温まる写真を投稿しています。

今後もお客さまからのご意見などを基に改善を重ねながら、あらゆるコミュニケーションチャンネルを最大限に活用し、より多くの方々に、より伝わる情報を発信できるよう努めていきたいと考えています。



ホームページ



YouTube動画 曙光～離れた地でも～



原子力、40年超えてもだいじょうぶ?



Facebook



Instagram

WEB IR情報の詳細は…

関西電力 株主・投資家



コミュニケーション誌による情報発信

当社グループの事業活動をステークホルダーのみならず、広く、また、より深くご理解いただくため、刊行物などでの情報発信にも努めています。例えば、広報誌『躍』では、社会性や時事性の高いテーマを深く掘り下げ、専門性の高い情報を発信しています。



広報誌『躍』

社内コミュニケーション

経営上の重要な情報を共有し、理解促進を図るとともに、職場の一体感や従業員のやる気・やりがいを高めるため、従業員同士や職場間、グループ間のコミュニケーションの活性化に努めています。社内報『関西電力新聞』では、経営情報などを詳細に解説し、特に重要な情報については、特集記事を組んでいます。1959年に創刊し、2016年3月には創刊1,000号を迎えました。また、経営計画などについては、社内テレビや社内ポータルサイトを活用して情報発信・共有をおこなっています。社内ポータルサイトは2017年1月にリニューアルし、経営層の考えや思いを分かりやすく伝達できるよう工夫しながら、社内コミュニケーションを実践しています。『関西電力新聞 2017年4月号』



出前教室

次世代層へのエネルギー教育のお手伝い

未来を担う子どもたちにエネルギーを身近に感じてもらい、その大切さを伝えることがとても重要との考えから、当社従業員が地元の小・中学校などに伺い、エネルギーに関する「出前教室」を実施しています。

この「出前教室」では、発電や送電の仕組みのほか、電気の使われ方や省エネの大切さ、地球温暖化問題などについて、楽しく、分かりやすく学んでもらえるよう工夫を凝らし、ご説明しています。

「出前教室」の年間実施回数

541回

原子力発電に関する当社の情報公開について

当社の原子力発電所における安全性・信頼性向上に向けた取組みに関する情報を、ホームページ、新聞広告、広報誌などを通じてお伝えしています。今後も、原子力発電の信頼回復に向け、こうした情報を多様な方法で、積極的にご提供していきます。



越前若狭のふれあい

今後の方針

当社は、電気事業、とりわけ原子力発電所の安全性などに対するお客さまや社会のみなさまの関心が高まるなか、当社事業や原子力発電にご理解をいただき、信頼を賜るため、さまざまな機会を通じて、従業員一人ひとりが「フェイストゥフェイス」によるコミュニケーションに努めてまいりました。

また、2016年4月から電力小売全面自由化、2017年4月にはガス小売全面自由化を迎え、当社を取り巻く環境はこれまで以上に大きく変化しています。今後ともより多くのみなさまに、電力の安全・安定供給を全うするための取組みや原子力発電所における安全性向上に向けた取組みなどについて、より一層のご理解をいただきながら、「power with heart」に込めた“まごころと熱意を込めたサービスで、お客さまや社会の『力』になりたい”との想いのもと、みなさまに寄り添い、ご意見やご要望にしっかり耳を傾け、当社事業への信頼を賜ることができるよう、開かれた事業活動を継続してまいります。



関西電力株式会社
広報室長
松倉 克浩